

# アフターサービスについて

保証期間はご購入日から1年間です。本説明書に従った使用状態において、保証期間内に不具合を生じた場合は、当該散布器の無料修理または無料にて新しい製品とお取替えいたします。

[保証期間を過ぎた散布器については、お客様のご要望により有料修理させていただきます。] ご質問やご不明なことがありましたら、お求めの販売店または当社お客様相談室にお問い合わせください。



**モリタ宮田工業株式会社**

〒253-8588 神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-1-1

TEL. (0467) 85-1210(お客様相談室)

販売店

改良等により予告なく仕様、その他を変更する場合がありますので、ご了承ください。  
TS02017100 15.06 P8

# 特殊消火薬剤散布器 取扱説明書

このたびは、モリタ宮田工業(株)の特殊消火薬剤散布器をお求めいただきまことにありがとうございます。当社はお客様の視点を軸に「安全・安心・快適」を見据えた商品をお届けしてまいります。お客様に安心してお使いいただくために取り扱い方法を説明しています。万一の不測の事態にもあわず、また安全・確実にご使用いただくために、この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、大切に保管し、必要なお読み返しください。特に「安全上のご注意」はご使用前に必ずお読みください。

CMM100W2・CMM200W2	金属火災用(メタレックス)
CMA100W2・CMA200W2	アルキルアルミニウム火災用(アルキレックス)
CMS100W2・CMS200W2	シラン火災用(シラネックス)

- 特殊消火薬剤散布器は消火器同様の構造部品となっています。取り扱いには消火器に準じてください。
- 散布器は初期消火の器具です。消火範囲に限りがあります。消火できなかったことによる人的、物的損害などについての補償、賠償はご容赦願います。

## 安全上のご注意 必ずお守りください

散布器は圧力容器です。ガスの圧力により消火薬剤を散布します。叩いたり、落としたり、強い衝撃などを与えないでください。誤った使いかたをすると、破裂等により重大な人身事故が発生することがあります。正しく安全にご使用ください。

- ⊘ この表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- ⊕ この表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

**⚠ 危険** 死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。

### 破裂等により人身事故のおそれあり

- ⊘ 錆、傷、変形、キャップのゆるみのあるものは絶対に使用しないでください。散布器を作動したとき、錆や傷等により弱くなった部分が圧力により破裂し、人身事故発生のおそれがあります。「設計標準使用期限」以内であっても絶対に使用しないでください。また、訓練用としても使用しないでください。
- ⊘ 分解しないでください。分解・修理・改造により破裂することがあります。ご不用になった散布器を処分される場合は、お求めの販売店または製造元(ラベルや取扱説明書に記載されている電話番号)にお問い合わせください。
- ⊘ 金属火災部分に水等をかけないでください。爆発して火災が広がります。
- ⊘ 散布器を直接、火の中に投げ込んだり、熱湯や熱風をかけて加熱しないでください。容器内の圧力が高くなり、破裂することがあります。

P1

**⚠ 警告** 死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容です。

### 破裂等により人身事故の可能性あり

- ⊘ 腐蝕しやすい場所に設置しない。湿度の高い所に置いたり、水・油・調味料(塩・醤油・味噌等)が付くことによる腐蝕などの劣化により、破裂することがあります。また、潮風や雨風にさらされる場所には設置しないでください。水などがかからない、湿気の少ない、風通しのよいところに設置してください。
- ⊘ 濡れた床や地面に直接置かないでください。腐蝕の原因になりますので、格納箱などをご使用ください。
- ⊘ 使用温度範囲を超える場所には設置しないでください。容器内の圧力が高くなり危険をともないます。
- ⊕ 半年ごとに点検を実施してください。散布器の点検をしなかったことにより、火災のとき散布器が使用できないことがあります。
- ⊕ 「設計標準使用期限(製造後10年)」を過ぎたものは、耐圧試験圧力値による水圧検査を実施してください。「設計標準使用期限」を過ぎた散布器は、経年劣化などにより破裂事故につながる可能性があります。また「設計標準使用期限」以内であっても、設置条件により不具合が生じる場合があります。「設計標準使用期限」を過ぎたものは新しい散布器と交換するか、耐圧試験圧力値(ラベルに記載)による水圧検査を実施してください。水圧検査についてはお求めの販売店または製造元(ラベルや取扱説明書に記載されている電話番号)にお問い合わせください。

### 人身事故のおそれあり

- ⊕ 金属火災周辺は高温になりますので活性炭入りマスク、耐火性手袋等の保護具を備えて火災の際はこれを着用してください。
- ⊕ 避難経路を確保しながら消火してください。無理な消火活動を続けず、避難経路を確保しながら消火してください。また火災により発生した煙やガスは人体に有害ですので絶対に吸引しないようにしてください。
- ⊘ 人に向けて消火薬剤を放射しないでください。消火薬剤により呼吸困難や失明等の危害が発生することがあります。万一、消火薬剤が目に入ったり皮膚に付着したときは、すみやかに水洗いし、異常を感じる場合は医師の診察を受けてください。
- ⊘ 散布器をみだりに捨てたり、放置しないでください。放置された散布器を誤って使用されると破裂することがあります。ご不用になった散布器はそのまま放置しないでください。ご不用になった散布器を処分される場合は、お求めの販売店または製造元(ラベルや取扱説明書に記載されている電話番号)にお問い合わせください。

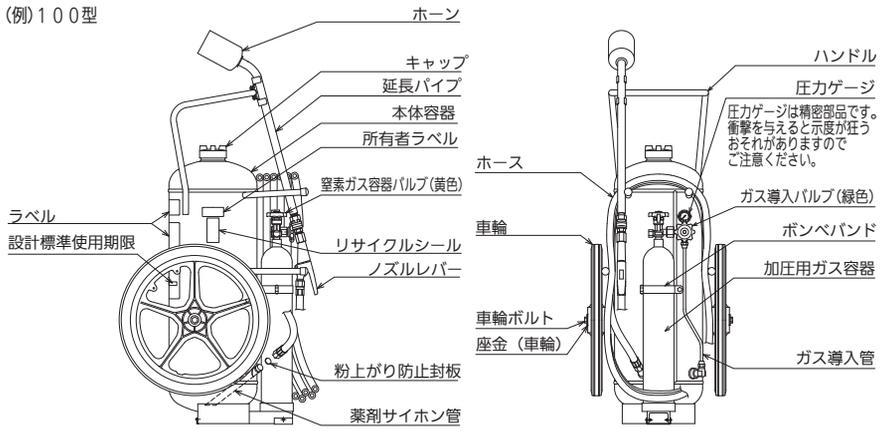
P2

**⚠ 注意** 傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容です。

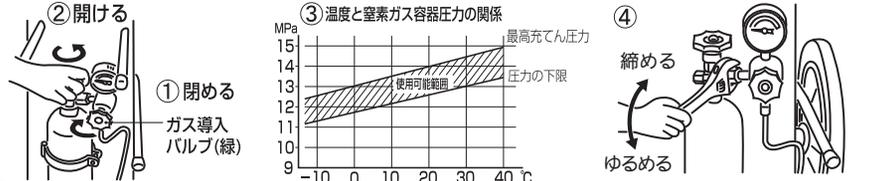
- ⊕ 使用方法を普段より確認しておいてください。散布器は人が操作して初期消火をおこなう器具です。普段より操作方法等は良く確認しておいてください。無理な消火作業を続けることはやめましょう。
- ⊕ 「適応火災」を確認してください。散布器には燃焼物の種類に対して適・不適があります。火災の大きさ、消火の時期、適応火災の違いなどにより消火できないことがあります。「適応火災について」の項目(P5)をよくお読みいただき、適正な散布器を設置してください。
- ⊘ 少量でも散布したものは再使用しないでください。新しい散布器と交換するか、必ずつめかえをおこなってください。
- ⊘ 使用時以外は加圧用ガスを導入しないでください。誤って加圧用ガスを導入したものは、すぐに新しい散布器と交換するか、つめかえをおこなってください。
- ⊘ 使用温度範囲以下となる場所には設置しないでください。使用温度範囲以下となる場所では満足な性能が得られません。
- ⊕ 幼児の手が届かないところに設置してください。幼児のいたずらなどにより消火薬剤を散布されますと大けがをすることがあります。幼児の手にふれないところに設置してください。
- ⊕ 散布器を転倒・落下しないようにしてください。地震や振動で散布器が転倒・落下しないところに設置してください。また上から重量物が落ちて損傷しないところに設置してください。
- ⊕ 散布器は立てた状態で使用してください。散布器を横に寝かせた状態や逆にした状態では消火薬剤が有効に放射されません。
- ⊕ つめかえや整備はお求めの販売店または製造元にお問い合わせください。
- ⊕ つめかえ薬剤、交換部品(加圧用ガス容器、パッキン等)は必ず当社指定の部品をご使用ください。指定部品以外のもを使用したことにより、散布器が正常に機能しないことがあります。加圧用ガス容器については散布器のラベルに記載されています。

P3

# 各部の名称



- 窒素ガス容器の圧力の確認の方法 ※安全のため消防設備士等に作業して頂きたい点検、保守項目です。
- ①ガス導入バルブ(緑色)が必ず「閉」の状態になっているかを確認してください。
  - ②「開」の状態では窒素ガス容器バルブ(黄色)を開けた場合は本体容器内にガスが導入されてしまいますので必ず点検整備をおこなってください。
  - ③窒素ガス容器バルブ(黄色)を開けてください。
  - ④圧力ゲージにて圧力を測定してください。使用可能範囲は③図のとおりです。使用可能範囲より低い場合(20℃にて12.6MPa)は新しいポンペと交換してください。
  - ⑤確認後、窒素ガス容器バルブ(黄色)を閉め、④図のようにスパナ等で袋ナットをゆるめゲージ部に残ったガスを抜いてください。抜き終わったら、必ず袋ナットを締め付けてください。



上図は代表散布器の事例です。機種により形状・構造が異なるものがあります。

# 設置について

- 地震や振動等で散布器が転倒や落下しないところに設置してください。  
\*転倒や落下した散布器は、お求めの販売店に連絡し、機器点検・整備等の処置をおこなってください。
- 落下物などによる衝撃が加わらない場所に設置してください。
- 通行や避難するときに邪魔にならないところ、また使用するときに簡単に持ち出せるところに設置してください。
- 散布器の底部や金属部が床や壁を損傷させることがありますので注意してください。
- 幼児の手が届かないところに設置してください。
- 高温多湿のところには設置しないでください。  
●40度をこえる高温の場所(ガスコンロ・ストーブなど発熱器具の近く)では、容器内の圧力が高くなり危険をとまします。また使用温度範囲以下となる場所では満足な性能が得られません。  
●散布器に表示されている使用温度範囲内の環境に設置してください。  
●屋外等で直射日光や雨風・降雪にさらされる場所、厨房等で常時水を使用し湿気の多い場所、海岸近くで潮風が当たる場所、化学工場地域や温泉地帯で腐蝕性ガス(硫化水素、亜硫酸ガス、塩素ガス等)の発生のおそれがある場所では、格納箱に収納するなどの防護処置をしてください。  
※格納箱についてはお求めの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

# 知っておいていただきたいこと

## 1. 適応火災について

散布器には、燃焼物の種類に応じて適する火災が異なります。お求めいただいた散布器が設置場所で想定される火災の種類に適しているものであるかご確認ください。

- メタルックス・・・金属マグネシウム、金属ナトリウム等の金属火災用
- アルキレックス・・・アルキルアルミニウムの火災用
- シラネックス・・・トリクロロシラン、メチルシラン等の火災用

## 2. 消火にあたって

- 燃焼物の上に振りかけるように消火薬剤を全量散布して燃焼面を被覆し、消火します。(内部が消えるまでそのまま放置してから金属残骸を処理してください。)
- 逃げ道を確認しながら消火してください。また火災により発生した煙やガスは人体に有害ですので絶対に吸引しないようにしてください。
- 屋外での消火は風上よりおこなってください。近付きすぎると火傷のおそれがあります。
- 無理な消火作業を続けることによって火災の拡大を引き起こさないよう、周囲の人に声をかけ、応援を求めよう心掛けてください。
- また被害を最小限にいとめるためにも早めに119番通報してください。
- 表面が消火されても、内部で燃焼していますので、最後まで火元に向けて全量散布してください。

## 3. 消火薬剤について

- 消火薬剤が目に入ったときは、すみやかに水洗いし、目に痛みを感じたり充血した場合には医師の診察を受けてください。
- 消火薬剤が皮膚についたときは、すみやかに水洗いし異常を感じた場合には医師の診察を受けてください。
- 消火薬剤を故意に口へ入れないでください。誤って口に入れた場合には医師の診察を受けてください。

# 再充てんの方法

※安全のため消防設備士等に作業して頂きたい点検、保守項目です。

- ノズルレバーを握り 本体容器内に残圧がないことを確認してください。
- 右図の箇所のネジをはずし、キャップ、窒素ガス容器、ガス導入バルブ及びガス導入管をはずしてください。
- 本体容器内の残留薬剤を抜きとってください。
- 封板を交換してください。  
ホースをはずした後、接続金具に図の様な方向で封板を入れ、クリーニング済みのホースをつけてください。
- 薬剤を充てんしてください。  
必ず規定量(記銘板表示)の薬剤を充てんしてください。
- キャップを締めつけてください。  
口金のネジ部に油を塗布してからキャップを締めつけてください。
- 窒素ガス容器を交換してください。  
窒素ガス容器は、再充てんしたものか、新しいものと交換し、ガス導入バルブ、ガス導入管を取り付けてください。
- ホースを収納する時は、右図の様に一巻きごとに巻き方をかえてください。ホースを伸ばした時のホースのねじれを防止できます。
- 各部の締めつけを再度確認してください。

# 正しい使いかた 散布器の使用方法にもとづき正しくお使いください。

- 散布器は立てた状態で消火操作をおこなってください。横に寝かせた状態や逆さまの状態では消火薬剤が有効に放射されません。
- ホースを全部伸ばしてから使用してください。
- 窒素ガス容器バルブ(黄)およびガス導入バルブ(緑)を開けた後、圧力ゲージの指針が安定(約20秒かかります)してからノズルレバーを操作してください。
- ノズルレバーをしっかり操作してください。
- ノズルレバーを操作する際、指をはさまないように注意してください。
- 放射中にレバーを元の位置に戻すと放射が止まります。
- 一度消火しても、また火がつくことがありますので、火元に向けて最後まで消火薬剤を放射してください。
- 散布後は、必ず火元を確認してください。
- 散布器の移動は、ハンドルを持ち車輪を使っておこないます。その際、散布器を転倒させたり散布器に足を巻き込まないように注意してください。



# 維持・管理について

- 分解・修理・改造は絶対にしないでください。  
●散布器は圧力容器です。  
●分解・修理・改造により破裂することがあります。
- 散布器のネジなどをゆるめないでください。  
●散布器の部品(キャップ、ホース等)をゆるめたりすると破裂事故につながる可能性があります。  
●散布器の機器点検・整備は、お求めの販売店にお申し付けください。
- 散布器を柔らかい布で、時々掃除してください。  
●水・油・調味料(塩・醤油・味噌等)ほこり等が付着していると腐蝕等の性能劣化をおこし永くご使用になれません。  
●汚れたときは固くしぼった布でふき乾いた布で仕上げてください。
- 掃除するときに有機溶剤(ベンジン、シンナー、ガソリン)や中性洗剤などを絶対に使用しないでください。  
※散布器本体容器に「リサイクルシール」を貼付しています。ご不用になった散布器を処分する際に必要となりますので、はがしたり損傷したりしないでください。
- 「設計標準使用期限」を確認してください。  
●「設計標準使用期限」を過ぎたものは新しい散布器と交換するか、耐圧試験圧力値(ラベルに記載)による水圧検査をお求めの販売店にお申し付けください。
- 異常が見つかったときはすみやかに販売店に連絡し、機器点検・整備等の処置をおこなってください。
- 消防設備士等による定期点検を実施してください。  
●半年ごとに消火器に準じた点検を消防設備士等により実施してください。

# 点検について 散布器がいつでも使用できるように点検を実施してください。

## 半年ごとに外観点検をしてください。

以下の項目で異常がある場合はすみやかに販売店に連絡し、機器点検・整備等の処置をおこなってください。

異常の状況	想定される内容
ホース内に薬剤が詰まっている	放射できないおそれ
ホースにヒビ等がある	破裂するおそれ
「設計標準使用期限」を過ぎている	性能劣化、腐蝕のおそれ
キャップにゆるみがある	破裂するおそれ
本体容器に錆、傷、変形がある	破裂するおそれ
窒素ガス容器の圧力が使用可能範囲外	使用できないおそれ
ノズルレバーがスムーズに動かない	使用できないおそれ
車輪がスムーズに回転しない	動かないおそれ

# 使用後について

- 消火薬剤がかかった器物はすみやかに掃除してください。  
●飛散した消火薬剤をそのまま放置しておきますと、カビの発生や金属類の腐蝕、塗装面変質のおそれがあります。  
●また電気器具などは絶縁を低下させることがあります。  
●掃除をするときは換気をしながら、マスクやゴム手袋などの保護具を着用してください。  
●掃除をするときは掃除機を使用しないでください。消火薬剤により故障するおそれがあります。  
●よく水洗いし、水洗いできないものは水で濡らした雑巾でよくふき取ってください。
- 消火薬剤がかかった電気機器は電源を遮断してから掃除をおこなってください。また、電気絶縁性が低下していることがありますので、専門の業者に点検を依頼してから、通電してください。
- 残圧の放出およびホースクリーニングをおこなってください。  
●ホースクリーニングをおこなわないで放置するとホース内に消火薬剤が詰まり、使用できなくなるおそれがありますので必ずおこなってください。  
●同時に、消火器内の残圧(ガス)をすべて放出し、本体容器内に圧力が残らないようにしてください。  
●方法  
①窒素ガス容器バルブ(黄)を開めてください。
- 散布器を図のように倒してください。
- ②ノズルレバーを操作し 本体容器内の残圧とホース内の残留消火薬剤を放出してください。(例)100型
- 使用後の消火器はすみやかに販売店に再充てんを依頼し、元のように設置してください。  
●加圧用ガスを導入したものは、中に消火薬剤が残っていても、すぐに整備・再充てんしてください。  
●外観・機能に異常がなければ再充てんして使用できます。お求めの販売店にご相談ください。
- 廃棄する場合は、法に従って廃棄処分しなければなりません。  
●ご不用になった散布器を処分される場合は、お求めの販売店または当社お客様相談室にお問い合わせください。  
●散布器を不法に捨てたり、放置すると法律で罰せられる場合があります。